

第2回： 地球環境時代の水環境研究

開催日： 1994年10月14日 / 会場： 「きゅりあん・小ホール」

開催趣旨： 平成5年11月、環境基本法が公布、施行され、地球環境の時代に環境問題を考える理念や手法の枠組みが示されました。この環境基本法では「環境の恵沢の享受と継承」「環境への負荷の少ない持続的発展が可能な社会の構築」「国際的協調による地球環境保全」などが柱となっています。したがって今後はこれらのテーマを反映した研究が各分野に求められています。このセミナーでは、環境基本法の理念のポイントを把握するとともに、いままでの水環境研究の成果と到達点を明らかにし、今後の新しい研究の方向について探求する

ことを目的としています。その理念として「自立」「共生」「持続」のキーワードに絞って、水環境問題に係わる研究者、行政担当者などが、どのように認識し、発展させていくべきかを考えてみたいと、このセミナーを企画しました。これをきっかけに広範な分野の方々が地球環境時代の水環境研究について考え、議論する意義は大きなものがあると考えます。

講演タイトル（講師／所属（当時））：

○ 環境基本法の理念と新たな社会像（内藤正明／国環境研）

今般成立した環境基本法において提起された新しい環境理念の下で想定される、今後の環境政策の考え方や手法論、技術的な対応や社会規範の変化といった新たな社会像について論じ、エコ社会に至るシナリオを提案する。

○ 水環境研究の課題（須藤隆一／東北大・工）

国内の水域における環境基準の達成状況を概観し、環境基本法をふまえた水環境を創造する上で要求される研究面および技術面での課題を論ずる。水環境の総合指標の確立や、環境全体を見通せる研究者の育成の必要性について述べる。

○ 水循環型社会の創造（中西準子／東大・環境安全研セ）

水環境の比較評価を行う上での方法論として、環境リスク評価法の考え方や手法につき概説した。特に生態リスクの管理手法に関して、リスク／ベネフィットの観点から基準値の算出方法や管理原則の提案を行う。

○ 水域生態系における生物の種多様性の保全（桜井善雄／応生研）

国内の水環境においては、動植物の多様性の著しい低下が指摘されており、環境保全上の重要な課題となっている。想定される原因を列挙し、種多様性の低下に及ぼす過程と結果、および考えられる対策について考察する。

○ 水環境の予測（岡田光正／広島大・工）

水質保全対策を目的とした予測手法として、水域を対象とした水質予測モデルの方向性や意義について論じ、また各種モデルの構造や複雑さと精度の関係、定数のキャリブレーションや検証、利用上の限界について解説する。